

絶滅危惧種アカハネバツタの保全および 草原管理技術の継承

特定非営利活動法人日本チョウ類保全協会

特定非営利活動法人日本チョウ類保全協会は、希少チョウ類を中心にした昆虫類の保全に関する普及啓発活動や、チョウ類をバロメーターとした自然環境の再生や改善を行っています。

【活動背景】

アカハネバツタは絶滅危惧IA類に指定されており、現在は山形、福島、新潟、長野、山梨5県のわずかな場所でのみ生息が確認されている。アカハネバツタの保全には、定期的な草原の火入れと草刈りによる環境管理が不可欠ですが、地域住民の高齢化などにより、火入れの技術継承が課題となっています。



煙のなかでジェットシューターの水を背負い、延焼しないかどうか目を光らせる



絶滅危惧種アカハネバツタは、飛ぶと鮮やかな赤い翅が広がる

【活動目的】

この活動はアカハネバツタの個体数の数を安定させ、絶滅を防ぐこととともに、同じく草原内の絶滅危惧種である動植物を守ることが目的です。また、活動を通して火入れ技術の継承も行うことで持続可能な草原維持を目指します。

【助成金の用途・活動結果】

助成金で防火用ジェットシューターと刈り払い機を購入したことで、火入れを安全かつ順調に進めることができ、2022年には30個体程度だったアカハネバツタの数が2023年には150個体に増加しました。また、火入れには計39人の若者が参加し、次年度以降のリーダー養成を進めることができました。

【団体からのメッセージ】

火入れや草刈りなど、里山の自然環境を維持するために集落の行事として行われてきたことを、外部の若者で継承しようとしています。特殊な技術を受け継ぐためには、技術すなわち民俗知を学ぶことと、必要な機材を使いこなすことの2つの面が必要です。今回、ジェットシューターや山林用の刈り払い機などの必要機材をそろえることができ、助成に感謝しています。毎年続いていく作業を、これからも欠かさず進めます。